

目次

二 郷土史の研究……………(三九)

はじめに……………(三九)

(1) 考古学史……………(三九)

『諏訪史』第一卷 尖石遺跡の発掘 藤森栄一

と地域考古学

(2) 古代・中世史……………(三三)

『諏訪湖の研究』と歴史研究 史料集の刊行

郡史編纂事業 徹底した資料主義 諏訪史談

会と調査・刊行 諏訪史二巻編纂の助手 古

代史・神社史研究

(3) 近世史……………(三八)

著作の刊行 論文の発表

三 新しい地方史の展開……………(三九)

はじめに……………(三九)

(1) 考古学史……………(四〇)

戦後考古学のはじまり 諏訪考古学研究所

井戸尻遺跡と縄文農耕論 開発による大規模

発掘の増加 埋蔵文化財の保護運動 市町村

史誌の成果

(2) 古代・中世史……………(四四)

解放された諏訪神社の研究

序説 諏訪史学史

一 郷土への関心……………(一九)

はじめに……………(一九)

(1) 考古学史……………(二〇)

考古学的記述のはじまり 考古資料の収集家

たち 近代考古学の誕生と人類学会 湖底曾

根遺跡の発見と曾根論争

(2) 古代・中世史……………(二三)

『信府統紀』と『奉令集』

(3) 近世史……………(二四)

歴史の探究 事件中心に書いたもの 家系へ

の関心

第一章 旧石器時代の諏訪

第一節 旧石器時代の遺跡と遺物……………九

(1) 北踊場遺跡……………九

北踊場の石槍 中学生が発見した旧石器 尖頭器とは バラエティー豊かな尖頭器 尖頭器の製作 折れた尖頭器 多量の尖頭器の意味

(2) 茶白山遺跡……………三五

黎明の茶白山人 信州で初めて発掘された旧石器遺跡 ローム層と石器 旧石器時代の局部磨製石斧 旧石器時代の炉跡? 黒耀石器の大量生産 ナイフ形石器と搔器 石刃とは 剥片剝離技術と石器群の構造

(3) 上ノ平遺跡……………三〇

赤土の中の石槍 茶白山から上ノ平へ 上ノ平型尖頭器と尖頭器文化 上下非対称の尖頭器 左右非対称の尖頭器 搔器・削器と石錐 局部磨製石斧とナイフ形石器 遺跡は谷下にもあった 尖頭器と石刃 上ノ平型尖頭器の個性

(4) 八島遺跡……………五九

(3) 近世史……………(四七)

中央学会の影響 『諏訪史』第四卷 新市町村史の刊行 各分野の成果

(4) 近現代史……………(五三)

『諏訪史』第五卷 新市町村史誌の刊行状況 論文の発表 『諏訪近現代史研究紀要』 広報と紀要

(5) 方言と民俗……………(五五)

民俗調査と研究 方言調査と研究

四 今後の課題……………(五七)

(1) 考古学……………(五七)

(2) 古代・中世史……………(五六)

(3) 近世史・近現代史・民俗……………(五九)

原始編

序章

原始の概観……………三

- 黒耀石の神秘の光 高原の旧石器遺跡 黒耀石原産地と原石の採取 石器の密集出土 予想される黒耀石の運びだし 八島遺跡で作られた石器 表裏非対称の尖頭器 八島インダストリーの位置づけ
- (5) 手長丘遺跡…………… 三
手長丘丘陵の旧石器遺跡 校庭から出た旧石器 小さなナイフ形石器 小さな石刃・小さな石核 細石器文化との関係 角錐状石器の発見 諏訪湖東岸遺跡群 黒耀石と諏訪湖関東と信州の接点？
- (6) 池のくるみ遺跡…………… 六
水河時代のくらし 山岳考古学の成果 いもり沢と踊場湿原「森林限界」と遺跡立地 礫群とタール状付着物 石刃とナイフ形石器 池のくるみ型台形様石器 下層文化と上層文化
- (7) ジャコツパラ遺跡群…………… 一〇〇
しかみちと黒耀石槍の狩人 新発見の遺跡群 黒耀石の搬出と遺跡群 第八遺跡の剥片の剥がし方 小さな台形様石器 第一二遺跡の石器群 折れた打製石斧 池のくるみとジャコツパラ

第二節 旧石器時代の文化と社会…………… 二七

- (1) 黒耀石と石器…………… 二七
狩人たちの八ヶ岳 黒耀石原産地 原石採取の方法 黒耀石と石器づくり 石器の種類 黒耀石を運ぶみち 黒耀石の行く先 直接採取と交換
- (2) 石器文化の変遷…………… 三三
脳・手・石器の「関係の三角形」 石器群の移り変わり 諏訪市内の遺跡の編年 尖頭器の発達 尖頭器の「それ以上」の意味 旧石器文化の終わり
- (3) 旧石器時代人のくらしと社会…………… 四四
水河時代の日本列島 旧石器時代の自然環境 居住生活とその痕跡 遺跡の分布と遺跡群 黒耀石文化を担った人々
- 第一節 縄文時代の遺跡と遺物…………… 一五
- (1) 曾根遺跡…………… 一五
湖底にあるムラ 曾根論争とは 縄文草創期とは 曾根遺跡の土器 曾根遺跡の石器 今

第二章 縄文時代の諏訪

後の曾根遺跡研究

(2) 片羽町遺跡……………一七

湖岸の低地遺跡 遺跡の発見と調査 縄文草創期後半の土器 草創期の石器 内容の異なる湖岸の草創期遺跡

(3) 細久保遺跡……………一七

押型文土器研究のはじまり 細久保遺跡の調査 細久保式土器の誕生 細久保式土器の位置 押型文土器の文化 諏訪市内の押型文土器遺跡

(4) 十二ノ后・千鹿頭社遺跡……………一八

縄文前期の集落遺跡 縄文前期の住居のしくみ 方形柱穴列の発見 縄文前期初頭の遺物 縄文前期を代表する遺跡

(5) 武居畑遺跡……………一六

遺跡の位置と調査のあらまし 縄文前期後半の住居址 器種の豊富な石器群 西山遺跡群 最南端の遺跡

(6) ジャコツバラ第一遺跡……………二〇

霧ヶ峰山麓の狩猟場 縄文時代の陥し穴 陥し穴の上を覆った植物 縄文人の生業の場 踊場遺跡……………二〇

(7) 中期初頭遺跡の立地と規模 踊場式の提唱

中期初頭土器群研究の進展

(8) 大ダツシヨ遺跡……………二三

福沢川左岸の縄文集落 弧状に並ぶ住居址 深い住居と浅い住居 新道式期の生活用具 特殊な有孔鍔付土器

(9) 荒神山遺跡……………三三

荒神山遺跡の立地 縄文中期のムラ 炭化種子の発見 縄文中期土器の好資料 土器片利用の漁網錘

(10) 穴場遺跡……………三七

遺跡の位置と環境 発掘調査の概要 一八号住居址の発見 一八号住居址出土遺物の重要性 縄文時代の拠点的なムラ

(11) 本城遺跡……………二四七

本城遺跡の位置 埋葬のないムラ 本城遺跡の縄文土器

(12) 福松砥沢遺跡……………三五

縄文中期後半のムラ 縄文中期のイエ 縄文後期のムラ

(13) 大安寺遺跡……………三六

湖を見下ろす後期集落 大安寺遺跡出土土器への関心 発掘調査の概要 かたまって出土した漁網用の錘 縄文時代後期の遺構と遺物

数少ない後期後半の集落址

第二節 縄文時代の住居とムラ……………三三

- (1) 遺跡の分布と移り変わり……………三三
- (2) 縄文草創期・早期の遺跡と立地……………三六
縄文草創期・早期の遺跡数 時期が重複しない草創期の遺跡 早期の遺跡と立地
- (3) 定着性の強まる縄文前期の集落……………三〇
住居数の増加 前期前半の集落の展開 前期後半の集落の展開 広場をもつ集落の出現
- (4) 縄文中期の集落と生活領域……………三五
縄文中期の集落と領域 移村 分村 交互移住のムラ 双環状のムラ ムラと共同性 諏訪湖畔の集落
- (5) 減少する縄文後晩期のムラ……………二六
ムラをとりまく環境の変化 敷石住居の出現 集落景観の変化 後期の遺跡分布 地域間ネットワークの再編 縄文ムラの終焉 弥生文化の受容に向けて

第三節 縄文時代の生活と文化……………三〇

- (1) 縄文時代の道具と変遷……………三〇
縄文時代のくらしと道具 縄文時代の狩猟

具・漁撈具 採集生活の発達を示す加工具
いろいろな加工具 縄文土器の変遷 縄文土器の形と用途

- (2) 縄文時代の狩猟と漁撈……………三二
山の幸 石鎌・石槍 陥し穴の発見 陥し穴の構造 海の幸 諏訪湖の様相 石錘と土錘 石錘と土錘の使用時期 河川の漁法と湖の漁法
- (3) 植物採集と「縄文農耕論」……………三六
縄文時代の生活と環境破壊 藤森栄一の原始農耕論 縄文農耕論の反省・成果 縄文中期の栽培植物
- (4) モノと文化の交流……………三五
持ち運ばれる黒耀石 縄文土器のうごきと交流 非日常的な道具のうごき
- (5) 縄文人のいのりとまつり……………三四
十二ノ后遺跡の方形柱穴列 多数の方形柱穴列 環状集石群の正体 縄文社会と土偶 石棒祭祀のあり方 縄文時代の蛇信仰

第三章 弥生時代の諏訪

第一節 弥生時代の遺跡と遺物……………三三

(1) 小丸山遺跡……………三五

埋納された小形土器

(2) 一時坂遺跡……………三五

諏訪湖を見下ろすムラ 発掘調査の概要 弥生中期の住居址と出土遺物 台地上の弥生集落

(3) 福松砥沢遺跡……………三六〇

諏訪の弥生時代 福松砥沢遺跡の弥生遺跡 三二号住居址と一括土器 弥生時代の墓

(4) 中浜町遺跡……………三六四

遺跡の発見 弥生中期の中浜町式土器 諏訪湖盆の弥生時代低湿地遺跡

(5) 大安寺遺跡……………三六八

遺跡の立地 第九次調査の概要 弥生後期の住居址 大安寺遺跡出土の弥生時代遺物 弥生時代の集落構成

第二節 弥生時代の生活と文化……………三七

初期弥生文化の進入 地域文化圏の成立 諏

訪圏の成立 弥生時代のムラと生活 弥生時代の住居

第三節 弥生時代の社会……………三六

弥生遺跡の二つの立地 弥生時代の農業 弥生時代の道具 農耕と信仰 弥生時代の墓制 古代のクニの原像

古代編

序 章

古代の概観……………三九

第一章 諏訪市域の古墳

第一節 古墳研究のあゆみ……………四〇五

市域の古墳 古墳研究史 戦後の調査

第二節 諏訪湖東縁の古墳……………四二

(1) 踊場古墳……………四二

(2) 茶白山古墳群……………四三

(3)	金比羅社古墳	四四
(4)	手長丘古墳	四四五
(5)	手長丘祭祀遺跡	四四六
(6)	綿の芝古墳	四四八
(7)	山の神古墳	四四〇
(8)	一時坂遺跡	四三〇
	七号住居址 一六住居址 前方後方形周溝墓	
	二号周溝墓 三号周溝墓	
(9)	一時坂古墳	四三五
	土壙墓 石室状遺構 一時坂古墳の副葬品	
	周溝墓から古墳へ	
(10)	御幣平古墳	四四〇
(11)	大ダツシヨ遺跡土器配列遺構	四四一
(12)	大石古墳	四四一
(13)	清水窪古墳	四四二
(14)	赤羽根古墳	四四三
(15)	古墳時代の祭祀跡	四四四
(16)	角道古墳群	四四五
(17)	御頭御社宮司社古墳	四四六
(18)	四ツ塚古墳群	四四七
(19)	藤塚古墳	四四七
(20)	金山古墳	四五〇

(21)	扇平通り古墳	四五〇
(22)	まわり場古墳	四五〇
(23)	神戸神社古墳	四五五
(24)	灰塚古墳	四五五
(25)	矢穴古墳	四五六
第三節 西山地区の古墳		
(26)	鐘鑄場古墳	四五七
	墳丘と石室 水鳥鈕付蓋平瓶	
(27)	久保塚古墳	四六二
(28)	清水古墳	四六三
(29)	小丸山古墳	四六三
	墳丘の消滅	
(30)	塚屋古墳	四七〇
(31)	中塚古墳	四七〇
(32)	北山ノ神古墳	四七一
(33)	西原古墳	四七一
(34)	本城古墳	四七一
	方形周溝墓 円形周溝墓 本城一号古墳 本城二号古墳 周溝墓と古墳の意義	
(35)	山姥塚古墳	四八一
(36)	真弓塚古墳	四八二
(37)	荒神山古墳群	四八二

荒神山一号古墳 荒神山二号古墳 荒神山三
号古墳

(38) 二子塚古墳…………… 四六四

二子塚古墳の掘り出し 出土品の検討 墳形
と石櫛の検討

(39) 塚屋古墳…………… 四九一

(40) 片山古墳…………… 四九二

古墳調査の経過 東櫛と西櫛 見つかった副
葬品 古墳の現状保存の実地

(41) フネ古墳…………… 四九九

墳丘・内部主体 豊富な副葬品と蛇行剣 副
葬品の特徴

(42) 武居畑遺跡…………… 五二

(43) 武居畑古墳…………… 五二

(44) 赤ナギ古墳…………… 五三

第二章 古墳の変化と諏訪の古代社会

第一節 科野の古墳文化の展開…………… 五五

科野の古墳文化 出現期古墳の様相 横穴式

石室古墳の出現 千曲川中流域の古墳 天竜

川中流域の古墳

第二節 諏訪地方の古墳…………… 五七

諏訪地方の古墳の変化 周溝墓とフネ古墳

第I期古墳の特徴 横穴式石室の波及 第II
期古墳の特徴 小形化する古墳 第III期古墳
の特徴 古墳の終焉 第IV期古墳の特徴

第三節 古墳の古代史上の意義…………… 五三

フネ古墳タイプの成立 フネ古墳タイプの展
開 フネ古墳被葬者の性格 フネ古墳タイプ
の分布 フネ古墳被葬者の領域 横穴式古墳
の出現と古代史

第三章 古代の集落と生活

第一節 古代のムラを発掘する…………… 五三

(1) 鐘鋳場遺跡…………… 五三

住居をつぶした古墳 古墳時代の集落 古代
人の副食物

(2) 十二ノ后遺跡…………… 五五

峠口の古代のムラ 発掘調査された古代のム
ラ

(3) 女帝垣外遺跡…………… 五三

平安時代と中世以後の遺構 出土遺物

(4) 本城遺跡…………… 五三

古墳時代の住居址 数多い墨書土器

(5) 荒神山遺跡…………… 五五

平安時代のムラ 灰釉陶器と鍔釜 中世館址

中世の住居址 城山遺跡の中世遺構

(6) 大ダツシヨ遺跡…………… 五〇

穴場遺跡…………… 五〇

(8) 福松砥沢遺跡…………… 五一

(9) 諏訪神社上社境内遺跡…………… 五一

上社境内の古い姿 中世末から近世の境内

炭化物出土の様相

第二節 古代のムラのくらし…………… 五七

竪穴住居とムラの生活 炉とカマド カマド

形土器の発見 平地のムラと山地のムラ ム

ラのカジャ 山麓の開拓者 ムラとミチ

第三節 多彩な生活用品…………… 五九

鉄器の普及 灰釉陶器の使用 須恵器 灰釉

陶器 中世陶磁器 墨書土器の世界 諏訪湖

の漁業 古代・中世の墓 古代の信仰遺跡

御射山遺跡 霧ヶ峰御射山遺跡の発掘 峠路

の石製模造品 蔵手刀と墓

第四章 大王政権と諏訪

第一節 倭の五王とシナノ…………… 六〇七

古墳の変化と諏訪 科野国造の支配 科野国

造軍と朝鮮

第二節 国造金刺舎人の登場…………… 六二

継体・欽明朝の内乱と金刺舎人直氏 金刺舎

人氏の国造就任

第五章 律令体制と諏訪

第一節 諏訪評と諏訪神社の成立…………… 六七

国評制と諏訪評 諏訪評と伊奈評 諏訪大祝

の起源 諏訪神社の起源

第二節 天智・天武朝と諏訪…………… 六三

庚午年籍と諏訪 阿蘇家略系図の問題点 壬

申の乱と科野金刺軍 諏訪神の祭 諏訪呪術

信仰と陰陽説 評による賛の貢納 田獵と狩

狐神事

第三節 諏訪国の分置と廃止……………三三

大宝律令と諏訪郡 須芳山嶺道の開削 諏訪の伝馬制 諏訪国の設置 諏訪国の範囲・国府の位置

第四節 律令制と金刺氏……………三八

諏訪郡衙 諏訪の郷里 律令制の機能 藤原仲麻呂の乱と金刺氏 内厩寮の新設と諏訪・伊那の牧 金刺・他田氏らの活躍

第六章 王朝国家と諏訪

第一節 平安時代の諏訪……………三七

農村の変貌 富裕者の台頭 諏訪の金刺貞長 郷から牧へ 牧の生活

第二節 信濃国一宮諏訪大社の成立……………三三

諏訪神の叙位 国司制度の変化と神社 国一宮としての諏訪大社 諏訪社の造営と年中神事

第七章 諏訪神社の古態

第一節 諏訪の古代信仰……………六三

縄文時代の信仰 水稻農耕の信仰 七石・七木信仰 山の信仰・湖の信仰 ミシヤグジ信仰 山の御手幣 薙鎌信仰 上社の鉄鐸

第二節 諏訪神社上社・下社……………六〇

諏訪神社の鎮座説 祭神建御名方神 洩矢神と大神大祝 上社の成立 下社の成立 古代史と古墳

第三節 諏訪の金刺氏……………七〇

諏訪神氏系図と阿蘇家略系図 信濃国造の移動 諏訪神社と金刺氏 神階上昇と金刺氏

第四節 上社大祝と五官祝……………七二

乙類と有員 村代神主 上社大祝の性格 上社大祝即位式 五官祝

第五節 上社と仏教……………七三

諏訪神社と仏教 諏訪神社内の造寺・造仏期 花会と常葉会 上社上壇 密教導入者満実

大祝即位式と仏教 鹿食免と甲賀三郎物語
御射山祭 信仰の普及と分社

第六節 上社の年中神事・行事……………七三

信濃「一宮」と国司奉幣 冬祭り 春祭り(上)
春祭り(下) 御立座神事と信仰圏 秋祭り
上社年内の頭役・御狩

第七節 上社特殊神事……………八〇

御造営・御柱祭 神渡と注進状

第八節 「大祝信重解決」と

『諏方大明神画詞』……………八二

「大祝信重解決」 諏訪円忠と「画詞」 諏訪
社縁起絵の再興 「画詞」の写本 諏訪の地
名・字源

中世編

序 章

中世の概観……………八七

第一章 中世のあけぼの

第一節 諏訪信仰と軍事・狩猟儀礼……………八三

諏訪信仰の変質 諏訪の御狩と軍事訓練 頭
人・狩人の身分と特権

第二節 諏訪社の荘園化と武士団……………八四

諏訪社の経済基盤 諏訪社の荘園化

第二章 鎌倉時代の諏訪

第一節 諏訪武士の成り立ち……………八五

諏訪武士の登場 内乱前夜の諏訪氏の伝承
保元・平治の乱と諏訪氏 木曾義仲の成長と
拳兵 横田河原の戦から頼朝との対立へ 義
仲の入京と没落 義仲と諏訪一族 武田・一
条氏の諏訪入り 頼朝と諏訪一族 諏訪大祝
の訴え 諏訪盛澄の赦免 諏訪盛澄と金刺盛
澄 御家人諏訪盛澄の活躍

第二節 諏訪武士団の活躍……………八七

梶原景時の乱と諏訪 比企事件と信濃 源家
の滅亡と諏訪武士 承久の乱の前夜 乱の勃

発と三手の軍 東山道軍の構成と諏訪氏 東山道軍の上洛路 諏訪系武士団の活躍 乱の終結と乱後の措置

第三節 諏訪氏と分流の活動…………… 六二

神氏の実態 諏訪氏と金刺氏 下社の金刺氏 『神氏系図』の謎 北条氏と信濃 諏訪盛重の活躍 北条・三浦氏・宮將軍と諏訪盛重 宝治合戦と諏訪盛重 時頼の回国伝説と諏訪得宗御内人としての諏訪氏

第三章 室町時代の諏訪

第一節 南北朝の内乱と諏訪氏…………… 六〇九

諏訪氏と守護小笠原氏 諏訪上下社幕府に帰順 京都諏訪氏

第二節 諏訪上社の権力構造…………… 六一

大祝と惣領による二重構造 惣領と大祝対立の背景 対立の諸相 諏訪社と郷村の武士 諏訪氏の対外紛争

第三節 諏訪の戦国争乱の幕あけ…………… 六三〇

信濃戦国争乱の幕あけ 諏訪氏と小笠原氏

諏訪の文明の乱の始まり 文明の騒乱と下社の没落 惣領への権力集中 諏訪上社頭役の衰退 諏訪上社の神罰強調 諏訪の世相

第四節 諏訪の社会と文化…………… 六四七

諏訪上社の郷村 諏訪地方の交通 諏訪地方の市と町場 諏訪上社と芸能

第四章 戦国時代の諏訪

第一節 武田氏の諏訪領有…………… 六五五

諏訪頼満と武田信虎 諏訪頼重と武田信玄 諏訪氏の滅亡 武田信玄の諏訪領有 武田信玄の諏訪・伊那平定 武田勝頼と諏訪

第二節 武田氏の諏訪統治…………… 六六六

城と郡代 御料所とその意義 武士の支配 百姓への課役 逃散と欠落の禁止 郷村の支配 商人と職人の支配 伝馬制度と道 金山の開発 寺社の支配 公権としての武田氏

第三節 諏訪社と武田氏…………… 六八四

軍神としての諏訪明神 宝鈴と武田氏 諏訪社への権力の浸透 信玄十一軸の意義 勝頼

と諏訪社 領国の一円的支配と諏訪社

第四節 諏訪の住民の生活と社会……………一〇三

戦乱の中の民衆 御神渡注進状から見た気候
自然災害と民衆 武士の生活 諏訪の農民
諏訪湖の漁業 諏訪の商人 諏訪の職人 諏
訪の町

第五節 戦国時代の諏訪神社……………一〇五

京都とつながる諏訪社 衰退する祭礼 武田
信玄の祭礼復興 武田氏時代の祭礼 造宮の
有様 諏訪社の社領 諏訪社の神人組織 諏
訪信仰の有様

第六節 戦国時代の文化……………一〇六

諏訪社の神事等の確認 伝える文化 消えて
いく文化 芸能と和歌

第五章 織豊時代の諏訪

第一節 武田氏の滅亡と河尻秀隆……………一〇七

新府城築城 木曾義昌の離反 織田氏の侵攻
高遠城落城 炎上する諏訪社 武田氏の滅亡
信濃の分割統治 織田信長の支配 新領主河

尻秀隆

第二節 本能寺の変と北条氏・徳川氏……………一〇八

諏訪頼忠の自立 北条氏の進出 徳川氏の進
出 乙事の対陣と和談 頼忠の諏訪支配 金
子城の築城 徳川氏麾下の出陣 小田原の役
出陣 諏訪氏の関東移封 諏訪の天正検地
諏訪頼忠の家臣団 武田遺臣の動向

第三節 日根野氏の諏訪統治……………一〇九

日根野氏の入部 高島城の築城 城下町の成
立 日根野検地 金山の採掘 民政 日根野
氏の転封

第四節 武州・上州における諏訪氏……………一一〇

武州における諏訪氏 奈良梨 蛭川 羽生
上州における諏訪氏 関ヶ原の役

第五節 混乱の中の諏訪社……………一一三

社殿の焼失 諏訪社領の喪失 大祝家の分立
神事の衰退 社殿の再興

第六章 中世の城館跡

第一節 諏訪郡内の城館跡……………二二九

城館の時代変遷 諏訪の山城築城 中世の山

城の構造

第二節 諏訪市内の城跡……………二三四

(1) 桑原城……………二三四

(2) 高嶋城……………二三四

(3) 大和城……………二四三

(4) 武居城……………二四四

(5) 荒城……………二五三

(6)	大熊城……………	二五七
(7)	真志野城……………	二六四
(8)	有賀城……………	二六九
(9)	金子城……………	二七三

年 表

索 引

諏訪市史編纂委員会名簿

諏訪市史上巻執筆者名簿

あとがき